

北州（北州千歳寿）

なき玉章の灯笼に

星のちわ言さゝめ言

銀河と聞けば白々と

白帷子の袖にそよそよ

はや八朔の白無垢の

雪白妙に降りあがり

なじみ重ねて

二度の月見に逢ひとて見とて

合せ鏡の姿見に

露うちかけの菊重ね

きくのませたる禿菊

いつか引込み突出しの

約束かたき神無月に

誰が誠より本立の

山鳥の尾の酉の市

妹がり行けば千鳥足

日本堤を土手馬の

千里も一里通ひ来る

浅草市の戻りには

吉原女郎衆が手鞠つく

ちよと百ついた浅草寺

筑波の山のこのも彼面

葉山茂山おしげりの

凡そ千年の鶴は

万歳楽と謡うたり

又万代の池の

亀の甲は

三曲にまがりて

曲輪をあらはさず

新玉の

霞の衣えもん坂

衣紋つくるふ初買の

袂豊かに大門の

花の江戸町京町や

背中合せの松飾

松の位を見返りの

柳桜の仲の町

いつしか花もちりてつとんと

見世すががきの風薫る

簾かゝげてほととぎす

鳴くや皐月の菖蒲草

あやめもわかぬひとへ物

いよし御見の文月の

しげきみかげに栄えゆく

四季折々の風景は

実に仙境もかくやらん

すみだの流れ清元の

寿延ぶる太夫どの

君は千代ませと悦びを祝ふ天びつ和合神

日日に太平の足をすゝむるあしはらの

国安国と舞ひ納む。